

西尾ソフトテニス協会（西尾軟式庭球協会）

- 創 立 昭和47年 4 月 1 日
- 加 盟 昭和32年（西尾軟式庭球クラブとして西尾市体育協会加盟）

■歴代会長・理事長

初代会長	昭和47年	村井正治
2 代	昭和48年～64年	本多貫一
3 代	平成元年～16年	佐藤典郎
4 代	平成17年	中村勝久
5 代	平成18年～23年	新実幸市
6 代	平成24年～	中村眞一

初代理事長	昭和47年～50年	小林征治
2 代	昭和51年～53年	石原勝美
3 代	昭和54年～56年	竹之内藤一
4 代	昭和57年～59年	中村勝久
5 代	昭和60年～61年	林 正孝
6 代	昭和62年～平成3年	藤井新一
7 代	平成4年～16年	竹之内藤一
8 代	平成17年～27年	岩瀬文夫
9 代	平成28年～	都築章次

■前史と団体の発足

西尾で軟式庭球（現ソフトテニス）が普及し始めたのは、明治33年（1900年）頃で志貴野出身の市川伊太郎先生が、西尾小学校へ赴任され、自分でラケットを買い、暑中・寒中をいとわず指導された事、又西尾小学校の初試合が、明治34年にあった事など、昭和28年4月28日付「民衆時報」が主催したテニス座談会で、古川博氏・杉浦動牛氏が語られている。

明治42年幡豆郡横須賀村（現吉良町）に群立農蚕学校が設立されて、第1回小学校大会が開催され優勝したと、故岩崎明三郎氏の手記で明らか。

大正に入り、小学校の教員間で盛んに行われ、幡豆郡教員協会庭球部で、部落対抗及び中学校対抗大会や、他郡との交流試合、さらに幡豆郡学童庭球大会等を定期的で開催していた。

県下に名を馳せた「西尾倶楽部」は、創立委員として新家積蔵・古川博・碓井泰三・吉見栄三郎・岩崎明三郎・本郷忠平の6氏を選出し、大正13年7月 創立総会を開き、第一歩を踏み出した。規約によれば、特別会員（創設者）と、特別会員の紹介により役員の承認を経て会費を納入した普通会員があった。入会金は5円で、月会費は1円であった。西尾尋常小学校（現西尾小学校）の校門を入った左側の民有地（倉内儀市・山本桂太郎の両氏所有）を借用して、700円の予算でコート2面を建設し、10月に完成を祝っての式典と記念の小学生生徒庭球大会を開催した。大正14年有志の出資によりクラブハウス（総工費523円）も完成し、管理人を駐在させていた。倶楽部設立以来、県下実業団、学生と小学生大会や、他地区との対抗戦等を開催すると共に、遠征試合も積極的に行っていた。鳥居博・山本峯組は第4（昭和5年）・5・6回全国初等教育者庭球大会で、三連覇の偉業を成し遂げている。

しかし、昭和10年に経済不況のあおりから、やむ無く解散に追い込まれ、愛着深きコートを防風用のポプラ移植等の工事をなし、全てを清算（総欠損金603円）して西尾尋常小学校へ引き渡した。創立以来の会員は76名であったと、故岩崎明三郎氏の手記に記されている。

戦後昭和29年（1954年）に、西尾市及び幡豆郡の愛好者で岩崎明三郎氏を会長に選び「西尾庭球クラブ」を結成されましたが、コートの確保が困難で、主に学校の施設を利用していた。昭和30年第10回神奈川国体教員の部で、村井・佐藤組、酒井・西村組で優勝を成し遂げた。昭和20年代後半から30年代にかけ、高校生の進歩が著しく、県代表として全日本・西日本大会・国体へ出場するようになった。こうした盛り上がりから、軟式庭球愛好者の増加の伴い、その組織強化を図るために、会長に村井正治氏を選び、昭和47年「西尾軟式庭球協会」を発足させた。

■時代の変遷

昭和30年・愛知県軟式庭球連盟に加盟

昭和32年・西尾市体育協会が設立時に加盟

昭和47年・西尾軟式庭球協会設立（4月1日）

役員構成			
名誉会長	岩崎明三郎	顧問	3名
会長	村井正治	参与	17名
副会長	佐藤典郎	常任理事	7名
	牧徳雄	理事	8名
理事長	小林征治	会計	2名
副理事長	笹尾三年	監査	2名
	斉藤喬甫		
会員構成			
名誉会員	34名	個人会員	108名
団体加盟		4団体	46名

昭和48年・庭球コート4面完成（8月26日）…
錦城町

- ・会長に本多貫一氏就任
- ・西尾市営コート開場記念式典及び記念大会開催（8月27日）
- ・第1回市長杯大会開催
- ・第1回三共杯大会開催
- ・第1回中部日本団体対抗戦大会開催
- ・第1回村井杯大会開催
- ・第1回壮年婦人大大会開催

昭和49年・愛知選抜大会開催

- ・早朝テニス教室開催

昭和51年・理事長に石原勝美氏就任

昭和52年・スタンド、管理室、倉庫完成

昭和53年・夜間照明灯完成

昭和54年・理事長に竹之内藤一氏就任

昭和56年・日本軟式庭球連盟から優良団体表彰受賞

- ・第1回鳥居杯大会開催
- ・宮本行夫氏（全日本監督）による県下ママさんクラブのリーダー100人の指導会開催

昭和57年・規約の一部改正

- ・理事長に中村勝久氏就任
- ・岩崎明三郎氏 元名誉会長逝去

昭和59年・中学生指導会開催

昭和60年・理事長に林正孝氏就任

- ・日本軟式庭球連盟から功労賞など4名が受賞

昭和62年・理事長に藤井新一氏就任

平成元年・会長に佐藤典郎氏就任

平成3年・理事長に竹之内藤一氏再就任

- 平成4年・西尾ソフトテニス協会に名称変更
- ・昭和43年より開催されていた岩崎杯を名称変更し、第1回協会会長杯開催

平成5年・西尾市制40周年記念大会開催

- ・テニスコートオープン20周年記念大会開催

平成6年・新国際ルール採用

- 平成7年・第1回グリーン&ローズ杯大会開催
- ・中部日本団体対抗戦を六万石杯に名称変更

- ・村井正治氏 元会長逝去

平成8年・村井杯を名称変更し第1回理事長杯大会開催

平成9年・第1回一般・高校生対抗戦開催

- ・鳥居博氏 元名誉会長逝去

平成11年・ソフトテニスコートの移転についての陳情書提出

- ・スポレクやまがた大会に鈴木正敏・安藤幹夫氏を含む愛知県チームが優勝
- ・第1回小学生テニス教室開催

平成12年・西尾ジュニアソフトテニスクラブ発足

平成13年・市内中学校指導者実技講習会開催

- ・規約一部改正

平成14年・第2回中学校指導者実技講習会開催

平成15年・西尾ソフトテニス協会設立30周年記念式典及び記念事業（稲垣道夫・奥田徹氏による実技講習会）を開催

平成16年・稲垣英雄氏シニア75才の部で全日本ランキング第3位

平成17年・会長に中村勝久氏就任

- ・理事長に岩瀬文夫氏就任
- ・規約一部改正
- ・中村勝久会長逝去

平成18年・会長に新實幸市氏就任

平成22年・佐藤典郎 元会長逝去

平成23年・3/12西尾・一色・幡豆3団体
合併調印

平成23年・新實幸市会長逝去

平成24年・会長に中村眞一氏就任
・規約改正

平成25年・西尾ソフトテニス協会設立40周年記念式典及び記念事業（稲垣道夫による実技講習会）を開催

平成26年・名誉会長に竹之内藤一氏就任

平成28年・理事長に都築章次氏就任

令和5年・西尾ソフトテニス協会設立50周年記念式典・記念誌発刊及び記念事業（アドマテックススフィアーズによる実技講習会）を開催

■受賞者一覧（敬称略）

（公財）日本ソフトテニス連盟		
昭和44年度	地方功労賞	村井 正治
昭和55年度	優良団体	西尾軟式 庭球協会
昭和59年度	地方功労賞	牧 徳雄
	功労賞	鳥居 博
	栄誉賞	村井 正治
	栄誉賞	佐藤 典郎
平成16年度	地方功労賞	牧 徳雄
令和6年度	支部功労賞	岩瀬 文夫

（公財）愛知県スポーツ協会		
昭和28・29 ・30年度	優秀選手	村井 正治
	優秀選手	佐藤 典郎
昭和30年度	優秀選手	酒井 辰夫
	優秀選手	西村 肇
昭和33年度	スポーツ 振興	岩崎明三郎
昭和36・37 ・38年度	優秀選手	村井 正治
昭和42年度	功労賞	鳥居 博
昭和46年度	功労賞	村井 正治
昭和49年度	功労賞	牧 徳雄
昭和57年度	功労賞	成田 篤史
昭和59年度	功労賞	佐藤 典郎

平成6・14 年度	功労賞	小林 征治
平成7年度	功労賞	竹之内藤一
平成14年度	体育指導員 功労賞	岩瀬 文夫
平成19年度	功労賞	林 正孝
平成20年度	功労賞	仁枝 佳子
平成26年度	功労賞	岩瀬 善雄
平成27年度	功労賞	村松 小夜
平成28年度	愛知県連盟 功労賞	岩瀬 文夫
令和3年度	功労賞	都築 章次
令和7年度	功労賞	浅岡 徳夫

（一社）西尾市スポーツ協会		
昭和33年度	功労賞	岩崎明三郎
昭和37年度	功労賞	村井 正治
昭和38年度	功労賞	鳥居 博
昭和42年度	功労賞	佐藤 典郎
昭和49年度	功労賞	牧 徳雄
昭和56年度	功労賞	成田 篤史
昭和58年度	功労賞	小林 征治
昭和59年度	功労賞	石原 勝美
平成元年度	功労賞	竹之内藤一
平成3年度	功労賞	中村 勝久
平成5年度	功労賞	日高 謙市
平成6年度	功労賞	稲垣 英雄
平成7年度	功労賞	古居 義信
平成8年度	功労賞	林 正孝
平成14年度	功労賞	新實 幸市
平成16年度	功労賞	岩瀬 文夫
平成18年度	功労賞	仁枝 佳子
平成20年度	功労賞	安藤 幹夫
平成22年度	功労賞	岩瀬 善雄
平成23年度	功労賞	藤井 剛
平成24年度	功労賞	村松 小夜
平成25年度	特別功労賞	竹之内藤一
平成27年度	功労賞	都築 章次
平成29年度	功労賞	浅岡 徳夫

平成30年度	功労賞	松山 喜代志
令和 2 年度	功労賞	片山 幹彦
令和 4 年度	功労賞	黒野 和英
令和 6 年度	功労賞	片山 公三

■あとかき

120 年以上の歴史を持ち、日本で生まれ世界へ広まったスポーツ「ソフトテニス」は、近年軟式庭球から名称が変更されたように、国際化（45ヵ国）により、ルールの変更・技術革新によるラケット等の材質の軽量化・週休二日制にともなう環境の変化、また97才で亡くなられた鳥居先生が「百歳でコートに立ちたい」と云っておられたように健康な心身を養う場として、年を取っても出来るスポーツとして大いに愛好されている。平成24年度には39回を迎える夏期早朝テニスや、小学生テニス教室は約 100 人が時間を区切って練習に励み、活況を呈しており将来が楽しみである。

本原稿は、故岩崎明三郎・故鳥居博・佐藤典郎 各氏の貴重な資料をもとに執筆することが出来ました。深く感謝申し上げます。

（竹之内藤一）

☆この資料は西尾市体育協会 50 周年（平成 20 年）時、記念誌の発行にあたり執筆されたものに、以降の受賞者等を加筆致しました。

（令和 8 年 3 月 2 8 日）